

- ・ 自己の在り方生き方について考える場
 

平成10年度と平成15年度を比べると、間違っただけの行為に対して「悪い」という意識をもつ高校生が増えていると同時に、その行為をしたことが「ある」という生徒も増えていることが分かる。

「悪い」という意識をもたずに間違っただけの行為をしている生徒に対しては、その間違いを正していく必要がある。一方、「悪い」と思いつつ間違っただけの行為をしている生徒に対しては、自己の生き方についてじっくり考えさせる内面的な指導が必要である。特に、高校生という年齢は、自ら考えて行動する自律へと向かう段階にあるだけに、行為の指導のみに陥るのではなく、自己の在り方生き方について自ら考え、よりよい生き方を求めていこうとする態度を高めるための場を設けていくことが大切である。

## 2 道徳教育とは

- ・ 「生きる力」の核となる豊かな人間性
 

前段で述べた子どもたちの状況からは、人とかかわる機会や意欲が減っていることや、学年が上がるにつれて、自ら考えてよりよい行動を選択し、実行する力が弱くなっていることがうかがえる。

これは、今、教育において求められている「生きる力」の大切さを改めて確認するものである。「生きる力」とは、生涯にわたり、変化の激しい社会の中で、いかなる場面でも他人と協調しつつ、自律的に社会生活を送ることができる、人間としての実践的な力である。その核となるのが、「豊かな人間性」である。それは、次のような感性や心、道徳的価値としてとらえられている。

- 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- 正義感や公正さを重んじる心
- 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- 自立心、自己抑制力、責任感
- 他者との共生や異質なものへの寛容

- ・ 道徳教育とは
 

これらを育てるのが心の教育であり、道徳教育である。

道徳教育とは、私たちだれもの心の中にある「よりよく生きていきたい」という思いや願いを大切にしながら、様々な人々やもの、自然、そして自分自身と対話し、人間としてよりよく生きる生き方を求め、実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。

昨今の残念な事件を振り返るにつけ、豊かな道徳性が育っていれば、事件は防げたものと思われることが多い。しかしその一方で、災害や事故などのニュースの中で、人間として心温まる行為や行動を見聞きすることもよくある。人間には本来、豊かな道徳性の素地となるものが備わっている。それをその人らしさとして発現させ、より豊かなものにしていくのが道徳教育である。

道徳教育の充実と確かな実践の積み重ねにより、他人と協調しながら自らの生き方を自らつかみ、自分らしく生きていくことのできる自律的な人間の育成が、今、求められているのである。